

芸術系学校の実態調査に基づくステートメント

COVID-19の感染拡大が世界的な問題として、誰もがそれからの脅威から逃れられず、最新ニュースに目を光らせる日々が続いています。その影響は生徒・学生(以下、学生)の学校生活を脅かしており、多くの教育機関においてオンライン授業等による対応が行われています。しかし皆様は、実技を専門科目とする学生の学校生活を想像したことはあるでしょうか。FREE藝大は六月に全国の美大・音大・専門学校・芸術系高校等、芸術系の教育機関で教育を受けている学生を対象に実態調査を行いました。今回の要請文では、その結果の報告と、その現状に即した支援の要求を行います。

FREE藝大が行った調査によると、殆どの大学ではオンライン授業が行われています。しかし、実技の授業に関してはその満足度は極端に低く、全体の %が「学校のオンライン授業に満足していない」と回答しており、その理由としては「対面授業と同等のレベルの授業が受けられない」「周りの学生と意見交流ができない」という回答が多く寄せられました。また、オンライン化に伴ってずっと家にいることから「友達に会えない」と回答している人もかなり多くを占めました。この調査結果は、実技を専門科目としている学生にとって、求める環境の授業はオンラインでは代替することができないことを示しています。現状において、多くの実技系学生が望んでいる授業環境は、制作・演奏・学習の空間を共有して課題に取り組んだり、教官と学生が成果について相互に意見交換をすることができる講評会や練習会を開催するなど、現実の空間を前提としたものなのです。よって、できるだけ早く対面授業を実施するために、講義の再開にあたっての十分な感染防止対策が必要となります。

さらに、各教育機関で構内入構禁止期間が設定され、その間学生は学校の施設、設備が利用できなくなりました。調査によると、殆どの学生が練習室や実習室、大学設備の機材が使えないことで創作活動、演奏活動ができず、困っています。自宅にアトリエや練習室をもっておらず、大学の施設や設備に依存しており、それらが使えないことによって芸術活動をほぼ完全に休止せざるをえないという学生がたくさんいます。そういった学生を救済するために、構内の学校設備利用を漸進的に学生にできるようにすることと、そのための感染拡大防止等の施策が必要になります。

同じく調査結果によると、学生は、学校の臨時休校や入構禁止等の措置に対して、何らかの不満を抱えていて、その措置がこれからも続いていく場合、「休校を検討する」と考えている人が10人に1人います。また、「通い続ける」と回答している場合でも、家族への負担や、進路への影響、奨学金制度の問題などを挙げている場合が大多数で、それらが休校という選択肢を選ばない要因になっています。したがって、芸術系の学生にとって休校という選択をする機会の確保が重要になります。休校申請期間の延長や、直接費用としての学費支払に関する保証はもちろんです。そこにとどまらず、奨学金制度や就職への配慮、特例、そして休校期間中での経済的支援も必要になるでしょう。

今回の調査で、芸術系学生の中で健康上の不安を抱える人が何人もいることがわかりました。早急に学生の健康状態を調査し、学内の医療機関を拡充、活用したうえで適切な医療ケアを行わなくてはなりません。

以上のような現状を含め、私達は以下五項を大学・国に求めます。

- 1.対面授業の実施のための費用負担を学校・国に求めます。
- 2.学校に原則入構することができない期間も漸進的に学校設備の利用を学生ができるようにすることと、そのための費用負担を学校・国に求めます。
- 3.学生の休学条件の確保、そして無償での学期の延長の権利を求めます。
- 4.早急な学生、家庭への経済的支援を求めます
- 5.学生の健康状況の調査と、それへのケア体制の拡充を求めます。
- 6.学校の感染防止対策、及びそれにかかる人員と費用の拡充を求めます。

以上

高等教育無償化プロジェクトFREE 藝大